

更生保護施設処遇力強化研修

1 日 時

ア 座学研修（講義動画）

グループワーク研修受講日までオンラインストレージサービスで共有する講義動画を研修員各自でアクセスして視聴。

イ グループワーク研修（参集）

- ① 令和6年8月26日（月） 10時から15時10分まで
- ② 令和6年8月27日（火） 10時から15時10分まで

2 場 所（グループワーク）

法務省地下1階 大会議室

3 研修員

既に特定補導（A群）を実施している又は特定補導（A群）の実施を希望する更生保護施設に勤務する職員のうち、法務省保護局長が研修員として認めた者 （53施設） 79名

4 概 要

法務省保護局及び全国更生保護法人連盟の共催により、更生保護施設職員を対象に、特定補導（A群）の実施に当たって必要な認知行動療法及び認知行動療法に基づくプログラムに関する基礎的な知識及び技術を修得させ、専門的な処遇力の向上を図ることを目的として実施された。

座学研修では、昨年度の処遇力強化研修においてオンライン配信された内容を基に再編集された講義として、①保護局更生保護事業係長による「更生保護施設における特定補導の実施について」、②北里大学医療衛生学部野村和孝准教授による「認知行動療法の基礎」の講義動画が配信され、研修員各自でアクセスして視聴された。

<講義内容>

- ①「更生保護施設における特定補導の実施について」～特定補導の仕組み（概要）やねらいについて、スライドを使用して解説。
- ②「認知行動療法の基礎」～認知行動療法の基礎として、「基本となる見立てと介入」「問題行動と依存症の理解」「問題行動と依存症の見立て」「問題行動と依存症への介入」「薬物依存回復プログラム等への応用」について、パワーポイントを使用しながら、薬物やギャンブル等の依存・嗜癖の問題行動に対する研究活動や務所や保護観察所で行われている薬物依存回復プログラム・性犯罪者再犯防止指導等での実践例などを紹介。

※更生保護施設処遇力強化研修（座学）の講義動画（グーグルドライブにて配信）

リンク：[【https://drive.google.com/drive/folders/19Ej4TvZ0tUI3bTi_Ld12CUk7tybMfJZX】](https://drive.google.com/drive/folders/19Ej4TvZ0tUI3bTi_Ld12CUk7tybMfJZX)

QRコード ⇒



（注）会報No. 156 32ページのタイムスケジュール参照のこと。

【グループワーク研修】

グループワーク研修では、上記①、②の日時に法務省地下1階 大会議室に参集し、南元更生保護振興課長の挨拶後、座学研修講師の野村准教授を招いて、研修員を4人一組のグループに分けて研修を実施した。

販売機：セブンイレブン付近



○南元課長挨拶



○ 野村准教授



○ グループワーク① 会場内

グループワークでは、講義動画に関する研修員からの質問に対する打ち返しの後、認知行動療法の実践として、講師による模擬セッションやスライド資料の解説を織り交ぜながら「基本となる面接技法」「機能分析」「グループワーク」「抵抗への対応」について、どのようにケースを見立てるか、プログラム実施時の留意点など講義を受けたほか、研修員は、グループ内でのリーダーとコ・リーダーの「機能的役割分担」、ワークシート（シナリオ）を用いた演習など体験的なグループワークを通して、認知行動療法のポイントを学習した。

グループワーク終了後、全国更生保護法人連盟稲葉常務理事(事務局長)が修了式の挨拶を行い、研修会を終了した。



○ 模擬セッション



○ グループワーク② 会場内



○稲葉常務理事挨拶

※研修員からの感想、意見概要（振り替えシート・抜粋）

I 座学講義について～感想

・嗜癖(アディクション)・依存についてしっかり学ぶことができたと思う。特に依存症については依存物質を使用しなくても使用したい気持ちがあれば依存症でありその気持ちから上手に距離を置く練習が大切であることを学んだ。

・認知行動療法の基礎の中の、行動を変えるには(2) 心理的援助における行動内容の大原則の、1) 望ましくない行動を減らすのではなく「望ましい行動を増やすこと」。2) 悪い結果を使うのではなく「良い結果」を使うこと。3) ○○しないではなく「○○する」をターゲットにすること。この視点が被保護者に対する接し方として大いに有効であると感じた。

・最も重要と思われたのは「寄り添い」の方法と思われる。指導するとか監督するというような上下的な関係を平行的な関係と対象者が感じられるような接し方が必要であると思った。何度も出てきて「一緒に」ということが大切と思った。

・特定補導の導入により、更生保護施設における処遇や支援の充実強化が必須となっている。また、更生保護施設の処遇が、再犯防止に大きく関わることがわかった。認知行動療法については、基本

となる心理学に基づく見立てにより、その後の適切な介入ができることを理解した。

- ・講義で学んだ「見立て」という考え方は、個性あふれる対象者への関わりや方向付けに対して日々感じていたことを言語化されていると感じ腑に落ちました。

- ・座学研修を受講し、嗜癖と依存の違いや認知行動療法の考え方や、見立ての仕方、介入の仕方などを学ばせていただきました。中でも介入の仕方などで、具体的にどのような声掛けをしたら良いのか、悪いのか、どこまで話したらいいのか、どこまで話さずにいいのかなどの加減についても具体例を交えながら詳しくお話しいただいたので、大変わかりやすかったです。

- ・日々の面談の中で場当たりの見立てのたて方をしており、今回分析を行う必要性について理解できた。他アルコール依存への理解を深めることができたことや、講義全体を通して自分自身の問題点（介入の仕方・対策の立て方が本人の思考に対してアプローチしている）を明確にすることができた。

- ・認知行動療法の指導に当たっては、場当たりの又は経験的ではなく、認知理論に基づくもので、見立てと心理学的介入が必要である。認知行動療法の実践には、後ろ盾となる見立てが必要であり、個人の感情に基づくのではなく、心理学を根拠とした理論的なものとなる。

- ・嗜癖と依存の使い分けについて学ぶことができました。今まで依存という言葉の意味を間違っていて使っていました。依存は体内に取り入れることによって使われる用語であり、物質の薬理作用によって身体依存が生じた場合を物質依存と呼ぶ。今回の座学研修を経て、薬物の種類、服用方法、障害、作用等、分からなかった部分を知ることができました。

- ・事例や言葉かけの方法、姿勢など、また、どのように見立て、面接を行うのか若干理解できたように思います。支援する人、される人という関係の解釈を入れず、その人物を知って接することが大切だと感じ、さらに実践的な講義を学びたいと思いました。

- ・「こうあるべき・こうすべき」というこちら側の決めつけではなく、「本人の言い分をよく聞き、それを基にした解決方法を対象者と一緒に考えていく」ことの大切さを再認識しました。

- ・認知行動療法の基礎では、同じほめるでもきちんと行動したことに対してほめるや、結果失敗してもそのことをほめるなど、行動が維持できるよう補導員が導くことが大事だと感じた。また、行動を変えることはできないが、望ましい行動へ導くことはできると感じた。

II グループワーク研修について～感想

- ・グループワーク研修前に受講した座学研修で学んだ中でポイントとなる部分の解説と、参加者からの事前質問に答える形で進行し、分かりやすい講義であった。

- ・講師の講義を直に聞くことができ、また、全国の仲間の生の話を聞くことができたことはとても有意義な時間であった。

- ・グループ内で話し合いすることで、自分とは違った意見やそれぞれの施設の対応方法などが聞けて、多くの学びがあり良かった。

- ・グループワークの役割分担の決定等に時間をかけることなく、講義、演習にかける時間を有効に使っていただいたのはとても良かったと思います。

- ・面接技術の良い例、悪い例を多く示していただき、それによって対象者の反応に変化が現れる様子を拝見できました。グループワークの時間が多くあり、他施設内での寮生の様子を例に用いながら練習ができました。様々な面談の技法が求められていることを感じました。

- ・問題行動の抑止を前提として、各個人の生活状況に応じた、適応できる範囲内で行動強化される仕組みづくりの重要性を感じた。

- ・これまでの支援を振り返ることができる研修だった。実践を踏まえての研修であり、今後の支援で生かしたいと感じた。

- ・役割を決めてのロールプレイング形式の実戦研修は、良い勉強になった。

- ・座学研修で得た知識をグループワーク研修によって、より理解を深めることができた。
- ・野村先生の面接風景を直接拝見することができ、問題点や疑問点などをその場で回答して下さるので、分かりやすくとても良かったです。
- ・今回の研修は講義だけでなくグループワークを中心とした体験型の講習であり、自己の仕事に対する考え方や進め方を再認識できる良い機会となり非常に有意義な研修でした。
- ・良い例、悪い例を提示して下さったり、隣の人と面談の練習をしたり、実践に即したものであったので理解しやすかった。問題行動分析シートは今後活用していきたい。
- ・認知行動療法について今後の処遇に活かすことができると感じ、研修内容も実際の処遇において実践できるものであったので、大変有意義であった。
- ・問題行動の機能分析でリーダーをしました。グループで色々な意見が出て意見の共有ができて良かったです。内容の濃い認知行動理論を教えてくださいました。
- ・講師の分かりやすい説明はもとより、面接の演習等実践に即したものであり、何の経験値がない私には、全て新鮮で学ぶことができたとともに、更生保護施設職員のスキルアップが急務であることを痛感した。

II よかった点、改善を要する点～感想

- ・可能であればグループワーク研修ではロールプレイを多く取り入れ講師の方からスーパーバイズいただけると、自身の対応の良し悪し・改善点が分かりやすく良い経験になったと思われる。
- ・オンラインでの座学研修を経て、実地での講義・演習でしたが、断然、実地研修が良いです。
- ・研修時程、規模等不満なく快適に勉強ができました。また面接における具体的な注意点、ヒントは日々の補導員としての仕事にも役に立つと思いました。講義形式もリズムカルな進行で飽きることなく最後まで集中できたと思います。
- ・これまではコロナの影響もあって、研修はオンラインでのものが多かったが、1日でも対面での研修ができたのは良かった。また全国から来ていた他の更生保護施設の方達と実際に会っての話、情報交換ができたことも大きな収穫であった。
- ・座学研修の中で「更生保護施設には在会期限があり、短期間で結果を出そうと思わずに『危機に対しての対策が立てられるようになった』ことを目標にするとよい」とお話がありました。支援者として、大変気持ちが軽くなる思いがしました。
- ・研修日程が2日間に分かれていたので、シフト制の勤務ですがどちらかには参加できるため助かりました。
- ・事前に座学研修を実施（終了）し、その後グループ研修という参集方式での実施方法（研修形式）は、大変合理的でかつ理解も深めることができたと思う。
- ・実技の時間は多ければ多いほど良いと思います。（個人的には倍の時間は欲しかった。）事業所規模が小さく、周囲との協力体制が取りにくい（合同研修等が開催できない）という状況では、今回のような研修は多く、熟練度に合わせた細分化を望みます。座学はオンラインで済ませ、実技は参集という形は参加する側にとってメリットが多かった。
- ・グループワークと2人一組での模擬面談を行ったが、時間的な制約から各班やペアでの振り返りができなかった。その点は少し残念に思った。
- ・グループワーク研修であったがもう少し他県の人との交流ができればよかった。
- ・良かった点は、事前に講義動画を視聴できたので講義の内容は理解できた。過去に刑事施設で薬物依存離脱指導に関わり認知行動療法を実践してきているので、エビデンスのあるプログラムは、有効であるとの認識はある。
- ・グループワークの時、1対1でそれぞれの立場に立って行った役割を交互で行ったほうがより実践的かなと思った。

・座学研修は、複数回動画の見直しができ、聴き逃した部分も繰り返し確認できて良かった。ロールプレイが実践現場で活用できそうな場面もあり、大変参考になった。グループが少人数の構成だったので他施設の方とのコミュニケーションがとりやすかった。もう少し施設間の情報交換の時間があってもよかったと思う。

・事前の座学と参集してのグループワークという形に分けていただいたのは合理的だと思う。ただし、折角全国から集まっているので、それぞれの施設で実施している特定補導の内容や方法を交流する時間があればよかった。

・グループ分けに関しては、他施設の方と交流が持てるのもっと良かったと思います。自己紹介の時間をきちんと設けていただきくと、その後の意見交換などがより深められるような気がします。

・よかった点 研修日程は、座学研修が自施設できるので、分からないところを何回も視聴でき、集合研修でグループワークの実践ができること。研修規模や場所も適当であった。会場が広がった。講義内容の説明等が丁寧で分かりやすかった。

